

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	14-153	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol Intake Increases High-grade Prostate Cancer Risk Among Men Taking Dutasteride in the REDUCE Trial. 高アルコール摂取はデュタステリドを服用している男性の前立腺癌リスクを高める		
執筆者		
Fowke JH, Howard L, Andriole GL, Freedland SJ.		
掲載誌		
European Urology. 2014 Dec;66(6):1133-8. doi: 10.1016/j.eururo.		
キーワード		PMID
前立腺癌、デュタステリド、アルコール試験		24568894
要 旨		
目的： これまでに、アルコール摂取と前立腺癌リスクの関係は明らかになっていなかったが、前立腺癌の予防試験において、高アルコール摂取者が 5α-還元酵素阻害剤を服用する男性の前立腺癌リスクを高めることを報告した。本研究は、アルコール摂取が 5α-還元酵素阻害剤のデュタステリドを服用している男性の前立腺癌リスクに及ぼす影響を明らかにすることである。		
方法： REDUCE (Reduction by Dutasteride of Prostate Cancer Events) 試験は、4年ほど追跡された多施設で行うランダム化プラセボ対照試験である。参加者は 50～75 歳の男性で前立腺特異抗原値 2.5-10.0ng/ml であり、前立腺がん生検において陰性である患者であった。参加者は、デュタステリド服用群 (0.5mg/日) またはプラセボ群に割り当てられ、ベースライン調査でアルコール摂取のアンケート調査を行い、参加者は 2 年目と 4 年目に前立腺癌の生検 (10 か所穿刺) を実施した。		
結果： 研究対象者は 6,374 名であり、うち 25%がアルコール摂取なし、49%が適度のアルコール摂取、26%が過度のアルコール摂取であることが報告された。プラセボ群ではアルコール摂取と前立腺癌との間に関連は認められなかった。また、デュタステリド服用群では、Gleason score の低い前立腺癌とアルコール摂取の間に有意な関連は認められなかった。一方で、デュタステリド服用群のうち、高アルコール摂取者は Gleason score の高い前立腺癌と有意な関係が認められ、前立腺癌のリスクを高めるという結果が示唆された。このことから、デュタステリドは、アルコール摂取のない集団における高悪性度の前立腺癌防止効果があるものの、アルコール摂取量の多い集団における前立腺癌抑止効果を無効することが示された。		
結論： デュタステリド服用者にとって、適度なアルコール摂取はデュタステリドの効果に影響しないものの、高アルコール摂取者においては、その効果を無効にする可能性が示唆された。		